

計画の基本理念について

委員の皆様からいただいた意見（順不同）

○基本理念の文言案

「大津市で住まいするすべての人が、国籍や人種などにかかわらず、ことばや文化・生活風習のちがいを理解し、 <u>多様性を認め合って個性を尊重し合いながら、互いに支え合う多文化共生のまちづくり</u> 」の実現。	松田委員
--	------

○基本理念で示す考え方・キーワードについて

（国籍や民族のちがいにかかわらず、みんなが） <u>「ここに居てもいいんだ」と安心して過ごせる『居場所』</u> になれば、と思います。	伊原委員
漠然とした意見ですが、「多様性」は大津市（その市民）が「受け入れる」ものではないように思いました。日本人だけの生活圏から他の背景を持つ方々が住む状況になる、ということを考えれば多様性はすでにそこにあるので、どちらかという <u>「多様性」は「認める」のか「活かす」（生かすではなく）</u> のような表現が相応しいかと感じました。	野阪委員
時流の変化を受入れ、進化につながるまちづくりをイメージします。 今の子どもたちは、クラスメートに多様な文化の友人がいるのが当たり前になりつつあり、感性が広がっていると考えます。身構えるのではなく、 <u>自然体で違いを否定しない考えを育む環境を整えたい</u> です。 大津は歴史と文化があるまちですので、世界との接点をつなげ広がりを持たせることで住人の年齢構成バランスを崩さず、市街地では無い区域も <u>活力が維持できるまちづくり</u> を願います。	木下委員
委員のみなさんの意見を改めて読み直すと「 <u>つながり</u> 」ということばが目につきました。このことばはこれまでの他自治体の理念にはあまり出てきていない言葉ですが、社会に分断が広がっている現在、大切な理念ではないかと考えています。 <u>「多様な人々の間につながりをつくる」「多様な人々が国籍や文化のちがいを越えてつながるまち」</u> などを加えるのはどうでしょうか。	浜田委員
「外国人」や「外国籍」等の「外」が入っている言葉を避けていただきたい。 <u>「日本国籍を有しない市民」や「多様なルーツを持つ市民」等の包括的な言い方は会話で不自然だ</u> と思いますが、文章では是非活用してほしいところです。 「尊重し合う」と「認め合う」等は多くのプランに活用されていますが、 <u>呆然とした日本語だ</u> というため、 <u>もっと具体的な日本語（「国籍や言語等の違いによって不快を感じない社会を構築する」？）</u> を使っていただきたい。	バルガス委員

・多様性尊重の意識醸成 ・安心、安全 ・住みたいと思うまちづくり ・きづき ・多様性にであう機会	光田委員
--	------

事務局案

国籍や文化のちがいを越えて人々がつながり、互いを尊重しながら、誰もが安心していきいきと暮らせる多文化共生のまち

計画のタイトルについて

委員の皆様からいただいた意見（順不同）

○「大津市多文化共生・国際化推進プラン」で問題ない（※副題に関する意見は後述）

国が策定した「地域における多文化共生推進プラン」にならい、「多文化共生」の文言を盛り込むことが基本型となっているので、それを外せないとすれば、現在仮称としている「大津市多文化共生・国際化推進プラン」というタイトルにならざるを得ないかと考えます。	伊原委員
2006年に総務省が「多文化共生」という言葉を使用して以来、国の方針として定着しているため、プラン名から外すのは難しいと思います。プラン名は「大津市多文化共生・国際化推進プラン」とするのでよい。	光田委員
基本的には今のままで良いと思います。	木下委員
プラン名は、「今のままでよい」と思います。	松田委員

○「大津市多文化共生推進プラン」がよい

シンプルに「大津市多文化共生推進プラン」で良いと思います。 「～Embrace Diversity, Unite for the Future～」のような英語を避けていただきたい。 ・「秩序」の時代に入りつつあるため、プランの持続の面からではタイトルに入れた方がいい？政府の事業（総務省国際室の多文化共生推進プラン）はまだ変わっていないけど、今後は？プランの持続を考えるとどうすればいいか。 ・多文化共生はまだ日本社会にそれほど普及していない？そのため、もっとわかりやすい「日本人と外国人がお互いに文化を尊重し合う」のようなタイトルにすべき？長すぎて具体的さを失う？	バルガス委員
---	--------

○「多文化共生」の文言を入れた方がよい（※副題に関する意見は後述）

プランそのもののタイトルは、多文化共生推進プランであることがわかるように、「多文化共生推進」の文言を入れた方がよいのではないかと考えています。最近「多文化共生」がバッシングの対象になることが多いことから「多文化」の看板を下ろして「共生」のみとすることが増えているようですが、あえて「多文化共生」とすることを提案します。	浜田委員
---	------

○「国際化」という表現が気になる（※副題に関する意見は後述）

国際化の中に多文化共生は含まれないのかというのが気になってはいます。国際化、というすでに住んでいる日本人も英語など多言語を話す必要がある、といったイメージを持たれるのではないかと心配な面もあります。	野阪委員
---	------

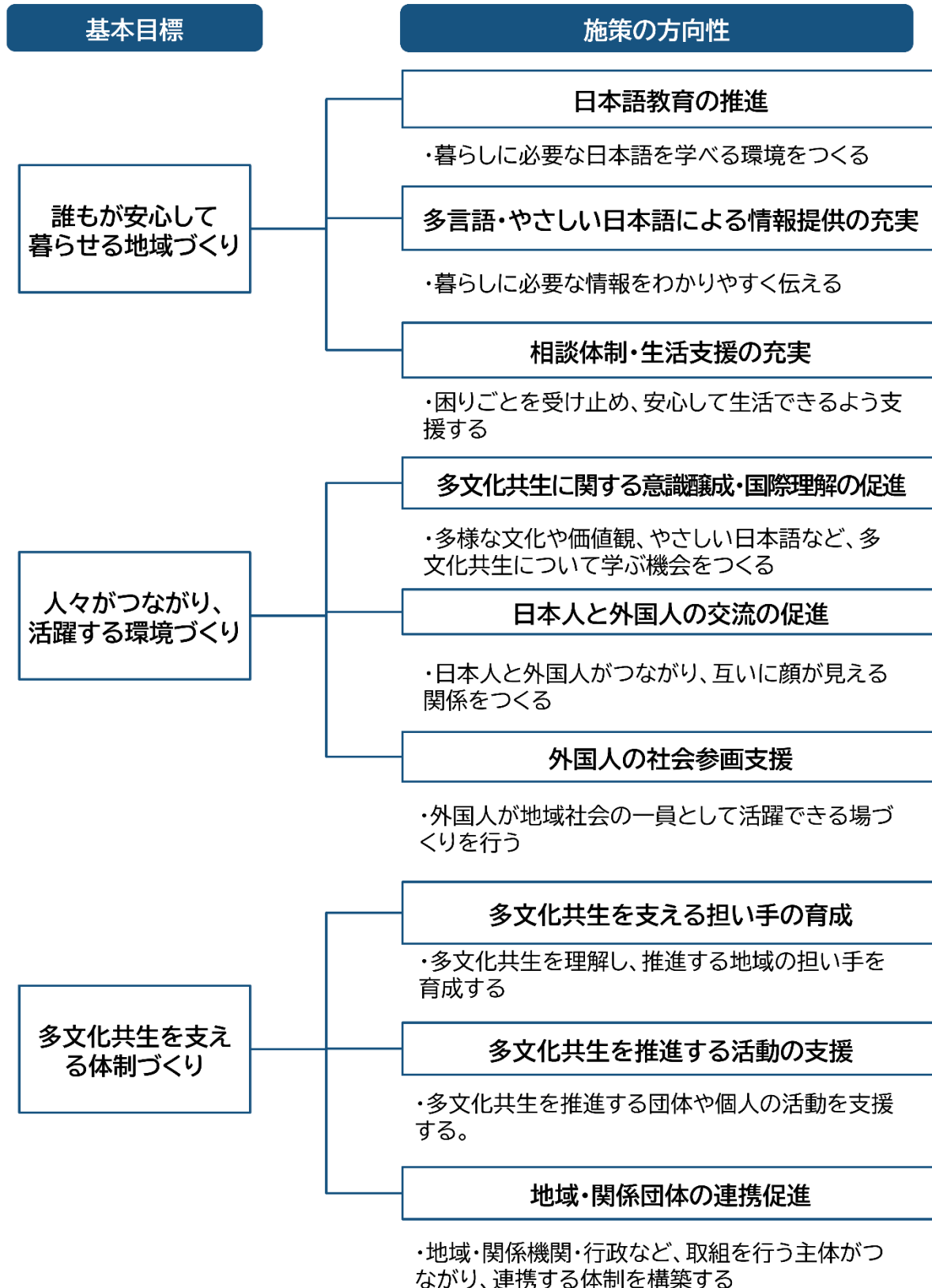
○副題もあるとよい

副題をつけるのは良いかなと思いました。ただ、基本理念の文章があるので、基本理念ができあがってから、それを短くしたらどうなるか、という考え方もあるかと思いました。	野阪委員
親しみやすさという点からはサブタイトルを付けるのがよいのではないかと思います。	浜田委員
身近で親しみやすい「副題をつける」ことも良いと思います。 例えば、～ちがいを認め合える誰もが安心して暮らせる住みやすいまち～など	松田委員
副題として「～ともにいきる・・・」や「～ともにつくる・・・」という言葉を入れることで単に共生だけでなく、すべての人が地域づくりの担い手をいうニュアンスがでると思います。(高知県や川崎市の副題が参考になるでしょう。)	伊原委員
(2006年に総務省が「多文化共生」という言葉を使用してから)20年が経過し、海外ではIntercultural、Inclusion、Welcoming cityといった概念が主流になってきているかと思います。これらにつながるような言葉を副題などで補うことが、今後の時代にも適しているにも思います。 副題に、例えば「誰もが参加できるまちづくり」などの表現を加えるのがよいのではないかと思います。	光田委員
副題をつけるのであれば次代を担う小中学生にも分かる表現で追記希望します。 例) いくつもの“ありがとう”が行き交うまち 世界とつながる、ひとが巡る、大津の未来	木下委員

事務局案

プランのタイトルは「大津市多文化共生・国際化推進プラン」とし、副題をつける
 大津市多文化共生・国際化推進プラン
 ～人々がつながり、いきいきと暮らせるまち大津～

施策体系案について



プランに位置付けるか今後検討していく取組事項

施策の方向性 (案)	大津市の現状の取組み (多文化共生・国際室担当分の み)	取組事項に関する委員の皆様のご意見一覧 (案)	その他（事業所・市民アンケート結果を踏まえた視点）
日本語教育の 推進	・住民登録時の日本語教室に関する情報提供	・日本語教育の環境整備に向けた体制構築（地域日本語教育コーディネーターの配置など） ・日本語を教える支援者（有資格者・ボランティア）の確保・育成 ・初級者向けの日本語教育の実施 ・多様な日本語教育の機会の確保（オンライン、気軽な会話の場など） ・日本語教室に関する情報発信・マッチング支援	・事業所が実施する日本語教育の支援
多言語・やさしい日本語による 情報提供の 充実	・行政文書（各種様式・パンフレット）の多言語化 ・「大津くらしのガイド」の発行・情報提供の実施	・やさしい日本語の普及啓発（一般市民向け・市職員向け） ・生活に関する多言語・やさしい日本語での情報提供の充実（ワンストップでの情報提供） ・多様な媒体を活用した情報発信の充実（動画、SNS など） ・外国人が日本の生活習慣やルール、マナーを学ぶ機会の提供	・外国人にもわかりやすい行政手続き ・事業所が実施する生活オリエンテーションの支援
相談体制・生活 支援の充実	・（外国人無料個別相談会） ・窓口や相談業務への国際交流員・通訳サポーター（有償ボランティア）の派遣 ・行政・医療の専門用語に対応した通訳支援サービスの導入（本庁・保健所・瀬田すこやか相談所）	・外国人相談窓口の設置・活用促進 ・外国人相談への対応力の向上（市職員向け研修、関係課での連携・事例共有など） ・通訳サービスの充実 ・外国人サポートボランティアの発掘・育成（外国人のちょっとした困りごとに対応できるボランティア）	・こどもの進学・就職支援 ・こどもが母語・母文化を学習できる機会の確保

プランに位置付けるか今後検討していく取組事項

施策の方向性 (案)	大津市の現状の取組み (多文化共生・国際室担当分の み)	取組事項に関する委員の皆様のご意見一覧 (案)	その他（事業所・市民アンケート結果を踏まえた視点）
多文化共生に関する市民の意識醸成・国際理解の促進	・市民に対する「やさしい日本語」や各種コミュニケーションツールに関する講座の開催 ・学校における人権学習での講演活動 ・国際文化理解教室の開催	・外国人に関する正しい情報発信・理解促進 ・こども・若者への多文化共生・国際理解教育の推進 ・日本人と外国人の交流機会の提供 ・外国語・外国文化を知る機会の充実 ・海外に親しむための情報発信 ・（反うわさ戦略の視点を入れる） ※反うわさ戦略とは：偏見や否定的なステレオタイプにもとづく「うわさ」を減らしながら、だれもが暮らしやすい社会をつくるための長期的な取り組み	・人権に関する啓発（市民向け、事業所向け）
日本人と外国人の交流の促進	・大津市多文化共生ボランティアによる集まりの場「International Community Day」の開催 ・姉妹友好都市との交流	・多文化共生のイベントの開催・地域での交流機会の充実（日本語教室やスポーツ・音楽などを介した交流） ・地域活動への参加促進	・事業所に対するイベント・行事に関する情報提供
外国人の社会参画支援	・市総合防災訓練における外国人避難者対応訓練の実施 ・行政文書翻訳・通訳サポーターとしての活動機会の提供	・自治会への加入促進、地域の活動への参加促進（防災活動、清掃活動など） ・外国人の活躍の場づくり（市職員、地域の役員への登用） ・外国人リーダーの育成	
多文化共生を支える担い手の育成	・多文化共生ボランティア制度	・外国人と日本人をつなぐ多文化共生サポーターの育成 ・多文化共生の視点を持った地域の人材育成	

プランに位置付けるか今後検討していく取組事項

施策の方向性 (案)	大津市の現状の取組み (多文化共生・国際室担当分の み)	取組事項に関する委員の皆様のご意見一覧 (案)	その他（事業所・市民アンケート結果を踏まえた視点）
多文化共生を 推進する活動 の支援		・個人・団体に対する活動支援 ・外国人市民グループの活動支援 ・活動に関する情報発信 ・活動の立ち上げ支援	
関係団体間の 連携促進		・多文化共生の推進に関わる団体等の連携・情報交換のための仕組みづくり ・県、近隣市との連携	・企業との連携・情報交換のための仕組みづくり